

# 農商工可能性探る

## 道農政事務所と連携へフオーラム

【石狩広域】北海道農政事務所と北海道経済産業局は27日、6次産業化・農商工連携フオーラムを札幌市で開いた。農



道農業について話し合ったパネル討議（札幌市で）

ムを札幌市で開いた。農林漁業者や製造、流通関係者、行政、金融機関などから約180人が参加。さまざまな連携による農業ビジネスの可能性を確認した。

パネルディスカッションでは、4氏が「北海道農業の明日に向かって」のテーマで議論。JAとまごまい広域の秋永徹組合長は、他産業との連携について「中小企業家同友会に入ったり、商工会議所など各機関と意見交換したりしている。例えば地元酒米を使った地酒を地元のこだわりの酒として販売している」などと説明。消費者に支持される農業の大切さを強調した。

オサダ農機の長田秀治社長は、同社が開発した

ニンジン自動収穫機に触れ、「農作業の労働力不足をカバーするために開発した。野菜の収穫は手作業でないと難しいため、野菜の機械化は遅れ

ているが、今後も開発を進めたい」と話した。農産物安全管理の国際規格を取得する支援などを行っているファーム・アライアンス・マネジメ

ントの松本武社長は「自由な考え方で農業にチャレンジしてほしい。考え方の自由度が増せば、新しい農業のモデルになる」と強調した。